

教科名	国語科	学 年	3	週時間数	3
使用教科書	「国語3」(光村図書)「新しい書写 一・二・三年」(東京書籍)				
副教材等	「学習漢字ノート3」(浜島書店)「光村の 国語のワーク3」(光村教育図書) 「つまづかない! 文法の学習」(新学社)「国語便覧」(浜島書店) 「書き方レンジャー」(正進社)				

教科の目標		○文学作品や説明的文章など様々な文章から、登場人物の思いや作者の心情、物の見方など、必要な情報に着目して要約などを行い、自分の考えを深めることができる。 ○自分の考えや集めた情報を整理し、発表したり文章にまとめた的確に表現したりすることができ、対話の話題や展開を捉えながら、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。 ○日本語の文法、漢字等についての知識を広げ、日常生活において正しく活用できる。		
授業の進め方		○教科書を中心に授業を進めます。プリントを用いて、グループ活動を行います。 必要に応じて便覧や辞典で意味や語句についての理解を深めます。 ○「学習漢字ノート」を用いて週1回小テストを行い、基礎学力の定着を図ります。 ○「新・基礎の学習 国語3年」を使って予習や内容理解の補充を行います。 ○文法は教科書及び「つまづかない！文法の学習」を用います。 文法事項の定着を図るとともに学習習慣を確立させます。		
観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	つきたい力	○「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に親しんだり、理解したりすることができている。	○「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり、豊かに想像したりする力を養っている。また社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	○言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたり、深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしている。また生活の中で自己を向上させ、言葉を適切に使おうとしている。
	方法	・漢字テスト ・小テスト(暗唱等) ・定期テスト ・作文、感想文、スピーチ等 ・書写の知識・技能	・授業における思考・判断・表現(ペア学習、グループ学習の中で) ・定期テスト ・授業プリントの中での思考・表現 ・作文、感想文、スピーチ等	・漢字テスト ・授業における学習態度 ・ワークやプリントへの取り組み ・作文、感想文、スピーチ等 ・書写(手紙等)
	学習のポイント	授業	○言葉での表現の仕方、語彙による意味の微妙な違いなどに着目し、教科書やプリントなどの内容を理解し、使えるようになろう。	○積極的に自分から考え、仲間の意見をよく聴き、考えを深めることを心がけよう。 ○便覧や機器による資料を収集し、伝え学び合おう。
定期テスト範囲	家庭	○漢字は何度も書いて練習し、文法の重要事項を覚え、資料で調べ、知識を定着させよう。 ○宿題は出された日にやっておく習慣をつけよう。 ○教科書を何度も読み、プリントを見直して基本となる重点ポイントを理解しよう。 ○読書や日記などに普段から取り組み、読み書きに親しもう。		
		1学期中間(5月下旬頃)	詩「世界はうつくしいと」・小説「握手」・漢文「学びて時に之を習ふ」	
		1学期期末(6月下旬頃)	論説「作られた『物語』を超えて」・俳句「俳句の可能性」「俳句を味わう」・随筆「言葉の釣り糸を垂らす」	
		2学期中間(9月下旬頃)	「実用的な文章を読もう」・詩「挨拶」・小説「故郷」	
		2学期期末(11月下旬頃)	論説「複数の意見を読んで、考えよう」・古典「和歌の世界、古今和歌集」・古典「夏草一『おくのほそ道』から」	
学 年 末(1月中旬頃)		詩「初恋」・論説「それでも、言葉を」・随筆「温かいスープ」		

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	詩	・描かれた情景を想像しながら読む。詩に込められた作者の思いを捉える。	・「世界はうつくしいと」
	5	小説	・小説の構成や場面の展開、登場人物の心情を捉える。	・「握手」
		漢文	・漢文の響きやリズムに注意しながら読み、孔子のものの見方や考え方を捉える。	・「学びて時に之を習ふ」
	6	評論	・文章の構成や論理の展開を捉え、評価する。	・「作られた『物語』を超えて」
		言語	・四字熟語の構成について理解する。	
	7	俳句	・俳句のきまりや表現の特徴を理解する。情景を豊かに想像する。	・「俳句の可能性」
		言語	・和語・漢語・外来語の定義と使い分けを理解する。	・「俳句を味わう」
		随筆	・筆者の見方に着目し、内容を具体的に読み取り、筆者の思いを捉える。	・「和語・漢語・外来語」 ・「言葉の釣り糸を垂らす」
2	9	論説	・文章に表れている筆者のものの見方や考え方を捉える。文章を批判的に読む。	・「実用的な文章を読もう」
		詩	・表現の特徴とその効果を理解し、作品を味わう。	・「挨拶」
	10	小説	・人物の心情と描写との関連や人物設定など、表現の特徴や工夫を捉える。	・「故郷」
		言語	・意味と用法、由来を理解する。	・「慣用句・ことわざ・故事成語」
		論説	・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、自分の意見をもつ。	・「複数の意見を読んで、考えよう」
	11	古文	・和歌が詠まれた背景を想像しながら、情景や心情を読み取る。	・「和歌の世界ー万葉・古今・新古今」
	12	古文	・歴史的背景などに注意して古文を読み、作者のものの見方や考え方を捉える。	・「おくのほそ道」
3	1	詩	・表現の特徴とその効果を理解し、作品を味わう。	・「初恋」
	2	論説	・筆者の主張を捉え、自分の知恵や経験などと照らし合わせながら内容を理解する。	・「それでも、言葉を」
	3	随筆	・筆者の見方に着目し、内容を具体的に読み取り、筆者の思いを捉える。	・「温かいスープ」

教科名	社会	学 年	3	週時間数	4
使用教科書	「新しい社会 歴史」(東京書籍)「新しい社会 公民」(東京書籍)				
副教材等	『公民の完全学習』(正進社)『歴史の完全学習 2・3』(正進社) 「未来へなぐ歴史資料集」 『W プリント社会』3年(新学社)				

教科の目標		○現在の社会のしくみについて、意欲的に学び合うことができる。 ○身に付けた知識や資料を読み取った内容を生かして、社会の課題について考え、理解を深めることができる。 ○史料や資料、地図に書かれている内容を読み取ることができる。また、資料を用いてさまざまな形にまとめ、読み取った内容を用いて社会的事象を理解することができる。 ○基本的な知識や正しい理解を身に付け、社会生活に生かすことができる。		
授業の進め方		○小グループでの学び合いを行います。分からないときは聴き、聴かれたら納得するまで説明して 支え合いながら学習内容を理解していきます。 ○授業ワークシートを使い学習を進めます。 ○社会のしくみや工夫、現代の課題と取り組みについて考え、疑問点や学んだことをまとめたり、発表したりしていきます。 ○社会的事象への理解を深めるために、他の生徒の意見を聴き、自分の意見と比較して考えます。		
観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	つけた力	○個人の尊厳と人権の尊重、民主政治、国民の生活向上と経済活動、国際関係について理解している。 ○資料から現代の社会的事象に関する情報を調べ、まとめることができる技能を身に付けている。	○社会的事象の意味や意義を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察している。 ○現代社会にみられる課題について、公正に判断したり、思考・判断したことを説明したり、議論している。	○現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会にかかわろうとしている。
	方法	・小テスト・定期テスト ・レポートなどの課題の内容 ・ワークシートの記述内容 ・授業への取り組み	・小テスト・定期テスト ・レポートなどの課題の内容 ・ワークシートの記述内容 ・授業への取り組み	・レポートなどの課題の内容 ・ワークシートの記述内容 ・授業への取り組み
	学習のポイント	○個人の尊厳と人権の尊重の意義、国民生活の向上と経済活動のかかわりを広い視野から正しく認識しよう。 ○資料から現代の社会的事象に関する情報を調べまとめよう。	○社会的事象について、多面的・多角的に考え、課題を公正に判断したり、説明しよう。 ○現代社会にみられる課題について、公正に判断したり、思考判断しよう。	○現代の社会事象について、現代社会にみられる課題の解決を、主体的に追究・解決しようとしている。
	家庭	○あらかじめ教科書を読み、疑問を持って授業に参加できるようになろう。 ○授業内容を細かく確認し、復習にいかそう。 ○社会の出来事に関心を持ち、新聞やテレビでニュースを読んだり観たりしよう。 ○疑問に思ったことを、本やインターネットなどで調べよう。 ○学んだ内容と日常生活を関連づけて考えよう。		
定期テスト範囲	1 学期中間(5 月下旬頃)	歴史的分野(第5章)		
	1 学期期末(6 月下旬頃)	歴史的分野(第6章)		
	2 学期中間(9 月下旬頃)	歴史的分野(第7章)公民的分野(現代社会)		
	2 学期期末(11 月下旬頃)	公民的分野(法律分野・政治分野)		

学 年 末(1 月中旬頃)

公民的分野(経済分野)・実力問題(地理・歴史分野)

学期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	《歴史的分野》		・明治維新
	5			・日清・日露戦争と近代 産業
	6	二度の世界大戦と日本	・昭和初期から第二次世界大戦終結までの日本の政治, 外交, アジア諸国との関係をはじめとする国際関係について理解する。	・第一次世界大戦と日本 ・世界恐慌と日本の中国侵略
	7	現代の日本と世界	・国際社会に復帰するまでの日本の民主化と世界の動きとの関連を理解する。	・第二次世界大戦と日本 ・戦後日本の発展と国際社会 ・新たな時代の日本と世界
2	9	《公民的分野》 現代社会と私たち 個人の尊重と日本国憲法	・憲法と政治のしくみと意義を理解する。	・現代社会と私たち ・人権と日本国憲法 ・人権と共生社会 ・これからの人権保障
	10	現代の民主政治と社会		・現代の民主政治 ・国の政治の仕組み ・地方自治と私たち
	11			
	12	私たちの暮らしと経済	・消費生活と経済, 生産のしくみと金融 について理解する。 ・財政と政府の働きについて理解する。	・消費生活と市場経済 ・生産と労働 ・市場経済の仕組みと金融 ・財政と国民の福祉・国際社会の仕組み ・これからの経済と社会
		地球社会と私たち		

3	1	3年間の内容の復習	・現代の国際社会の特色と課題について 考えを深める。	・さまざまな国際問題 ・これからの地球社会と日本
	2		・持続可能な社会の実現のために何が必要かを考える。	
	3			

教科名	数学	学 年	3	週時間数	4
使用教科書	「未来へひろがる 数学3」（啓林館）				
副教材等	「数学の問題ノート」（新学社）				

教科の目標		○数量や図形などについて基礎的な概念や原理・法則などを理解することができる。また、事象を数学的に表現・処理したりすることができる。 ○数学を活用して事象を論理的に考察し、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現することができる。 ○数学的活動の楽しさや数学の良さを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとすることができる。また、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする事ができる。		
授業の進め方		○学習の定着と理解を深めるために、落ち着いて授業を受ける環境を作り、授業規律を重視します。授業の始めに、本時の目当てを明記し、授業の終わりに振り返りをします。		
観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	つきたい力	○基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。	○数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察することができる。 ○図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。 ○関数関係の特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。 ○標本調査で、母集団の傾向を推定し判断したり、調査の方法や結果を批判的に考察したりすることができる。	○数学的活動の楽しさや数学の良さを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとすることができる。 ○問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたり、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする事ができる。
	方法	・小テスト ・定期テスト ・授業中の問題解決の様子	・定期テスト ・授業中の問題解決の様子	・授業中の様子 ・副教材、ノートの内容
	学習のポイント	○問題をしっかり解こう ○用語や法則を理解しよう ○間違えた問題は繰り返し挑戦しよう	○問題解決の過程を、数学的な表現を用いて説明しよう。 ○自分の考えを周りに伝えよう。	○人の話をよく聴こう。 ○粘り強く学習しよう。 ○わからないところを質問して解決しよう。
	家庭	○学習した内容はその日のうちにノートの見直しや、ワーク・プリント等で復習しよう。 ○ワークの解説等を利用し、答えに至るまでの式や理由も考えよう。		
定期テスト範囲		1学期中間(5月下旬頃)	式の展開と因数分解，平方根，二次方程式	
		1学期期末(6月下旬頃)	二次方程式，2乗に比例する関数	
		2学期中間(9月下旬頃)	図形と相似	

	2学期期末(11月下旬頃)	円の性質，三平方の定理，標本調査とデータの活用
	学 年 末(1月中旬頃)	全範囲

学 期	月	単元	学習のねらい	おもな学習内容
1	4	式の展開と 因数分解 平方根	・展開や因数分解を理解し，その公式を活用して見通しをもつて効率的に活用できる ・数の平方根について理解し，数の概念の理解をいっそう深めるとともに，根号を含む式を処理することができる。 ・2次方程式の解法を理解し，二次方程式を用いて問題を解決できる。 ・式・表・グラフを活用して問題を解くことができる。	式の展開と因数分解 式の計算の利用 平方根 根号をふくむ式の計算 平方根の利用 章末問題 二次方程式 二次方程式の利用 章末問題
	5	二次方程式		関数とグラフ $Y = a \chi^2$ の値に変化 いろいろな事象と関数
	6	二乗に比例 する関数		
	7			
2	9	図形と相似	・図形の相似の概念を明らかにし，三角形の相似条件をもとにして図形の性質についての理解を深め，相似を活用できる。 ・円周角の定理やその逆，円の性質について理解し，円周角と中心角の関係を活用することができる ・三平方の定理について理解し，それらを実際の問題に活用することができる。 ・標本抽出の意味と方法を理解し，標本調査から母集団の傾向を推測することができる。	図形と相似 平行線と線分の比 相似な図形の計量 相似の利用 章末問題 円周角の中心角 円の性質 章末問題
	10	円の性質		直角三角形の3辺の関係 三平方の定理の利用 章末問題
	11	三平方の定理		
	12	標本調査と データの活用		標本調査 章末問題
3	1			
	2	3年間のまとめ	問1問題を確実に解く練習をし，応用問題に積極的に挑戦する姿勢を身につける。 入試問題に慣れる。	入試問題を中心に，三年間の復習をする。
	3			